

# 南陽図書館つうしん 2019春号

〒455-0857 名古屋市港区秋葉一丁目 130-79

Tel.052-301-2116 Fax052-301-2117

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は開館し、直後の平日を休館）

第3金曜日（祝日の場合は開館）年末年始（12/29-1/4）

特別整理期間【H31年度 6/17（月）～21（金）】

ホームページ：https://www.library.city.nagoya.jp



## 「ビブリオバトル」ってなに！？

南陽図書館では昨年12月27日にビブリオバトルを開催しました。これは発表者（プレゼンター）がお気に入りの本を持ち寄り、ひとり5分でその本の魅力などをプレゼンしあい、最後に「どの本が一番読みたくなったか」について全員で投票し、最も票を集めた本を「チャンプ本」とするものです。

今回は南陽高校との連携行事として、文芸読書部の生徒にプレゼンターになってもらい、それぞれのお気に入りの本をプレゼンしてもらいました。

また今回、観戦者（プレゼンを聴く人）も11人の方の参加がありました。プレゼンの後の質疑応答も活発に行われ、大いに盛り上がり、嬉しい限りでした。ただ今回の観戦者はすべて大人だったのが残念で、10代の若い人に参加して欲しかったです。次回はぜひ学生の皆さん、どうぞお気軽にご参加ください。

ビブリオバトルのモットーに、「本を通じて人を知る、人を通じて本を知る」というものがあります。紹介している本を通じ、その人に興味を持つ。「あの人が紹介している本はどんな本だろう、一度読んでみよう」と、紹介する人を通じて本に興味を持つ、ということです。いずれも、聴く人の世界を広げてくれるきっかけになるでしょう。あなたも、ぜひ見に来て投票してみませんか？



おすすめ  
します！

## 新しく入った本の紹介



### 『幸福の一手 いつもよろこびはすぐそばに』

加藤一二三／著 毎日新聞出版 796

「人生を歩む」と「将棋を指す」ことは似ている。将棋に、まったく勝てなくなり、生活までもが不安に押しつぶされそうな時キリスト教に入信し、悟りを得て自分の将棋の糧とした著者。今ではタレントの「ひふみん」として有名ですが、初代中学生棋士にして、数々の最年少記録と最年長記録を持つ大棋士の一人です。そんな「ひふみん」流人生訓をどうぞ。

### 『世界一周猫の旅 トラネコボンボンの365日』

中西なちお／著 誠文堂新光社 6457

著者は、旅をしながら世界中の料理を作って提供する「旅するレストラン トラネコボンボン」の主宰者であり料理人。また作家として、絵本や料理本の制作もしています。本書は、空想キャットと共に世界中を旅するイラスト・エッセー集。センス抜群の配色で描かれた猫のイラストは、味わい深く、時間を忘れてうっとりとし入ってしまいます。

### 『わたしの本の空白は』

近藤史恵／著 角川春樹事務所 9136

ある朝目覚めると、病院のベッドに横たわっていた私。思い出そうとして、凍りつく…。自分の名前も何もかもが分からない。鏡を見ると、見たこともない二十代半ばくらいの女性が映っている。夫だという人にも違和感が拭えないまま、自分の家だと言われた所に連れて行かれて…読み始めると最後まで一気に読みたくなる本です。



## ★ 行事報告 ★

### 認知症予防教室 (11/13 開催)

港区西部いきいき支援センターとの連携事業として「認知症予防教室」を開催しました。「どんな症状が出ると認知症なの？」から始まる、介護や予防法に関する話のほか、予防に効くストレッチや、組になっての手遊びなども行いました。うまくできなくても、人と交流し「楽しい」と思うことが、認知症予防には一番効果があるそうです。活発な質問も飛び交い、笑顔あふれる講座となりました。



### バルーンアートで冬をかざろう! (12/22 開催)

冬休みの土曜日、バルーンアートの教室を行いました。それぞれ好きな色の風船を選んで犬を作り、色ペンやシールで飾りました。講師から素敵なバルーンのリースなどがプレゼントされ、参加者は大満足の様子でした。



### フェアトレードの布を使って さき織り

#### コースターを作ろう! (1/26 開催)

南陽高校 NanyoCompany 部手作りの紙芝居で、フェアトレードについて学んだあと、部員の指導でコースター(⇒)を織りました。小学生から祖父母世代まで、「思ったより簡単」「うまくできた」と、楽しまれたようです。



## ★ 行事案内 ★ 4月23日は子ども読書の日

4月6日(土)から16日(火)まで、名古屋市の小・中学生から昨年募集した「本の帯コンクール」の優秀作品を展示します。あわせて18日(木)まで、関連図書の展示・貸出も行います。児童たちの力作をご覧ください。

4月20日(土)から5月6日(月・祝)までは、昨年好評だった、児童書の「わくわくお楽しみ本」を実施します。テーマ・対象年齢ごとに本を包んだまま貸出しする本の福袋です。お子さんやお孫さんといっしょに、自分の楽しみに、いつもなら手に取らない本も、借りてみてはいかがでしょうか？

## 色の楽しみ



春になると南陽図書館の南西側では、つくし(スギナ)が頭をだし、春の訪れを実感できます。

昨年の3月、一日体験の染色と機(はた)織りに参加しました。桜の木の枝を染料として用いたところ、染まった色は三色で、ベージュのようなピンク、ほんのりとした黄色、そして薄いグレーでした。桜はいろんな色を蓄えており、同じ木でも枝を切った時期などで異なった色が出るそうです。講師から、桜を染料として使う時は、どんな色に出会えるのだろうと楽しみでもあり、また緊張もするとお話がありました。植物の内に秘めた力を実感した、また機織りで筋肉痛になり体力のなさを痛感した一日でした。

一日体験後、染織に関して読んだ本をご紹介します。

\*『誰でもできる草木染めレッスン』 箕輪直子/著 誠文堂新光社

家庭でできる染め方を紹介しています。落ち葉や玉ねぎの皮、ハーブ、カレー粉など身近なものを使って、初心者でも簡単に染めることができます。糸や布製品だけでなく、和紙や木のボタンも染められます。お気に入りの品を染めてみてはいかがでしょうか。

\*『色を奏でる』 志村ふくみ/文 筑摩書房

人間国宝でもある染織家、志村ふくみさんの色にまつわるエッセイ。収録されている「色をいただく」という短い文章には、思い描いた色に染めるのではなく、草木がすでに内包する色を「いただく」という、染織家としての姿勢が端的に表現されています。

自然と糸と織物の写真も非常に美しく、何度読んでも味わい深い本です。

